

The Zen Method (3次元処方) と胃癌のケース

由井 寅子ホメオパシー博士

摘要：この論説は、由井寅子博士が考案したホメオパシー療法、ZEN メソッドについて叙述している。これは、ホメオパシーのレメディーが、体、心、魂という三つのレベルに、ホリスティックな方法で作用する三次元処方である。患者は、ポータンタイズされたホメオパシーレメディー、マザーティンクチャー、ティシュー・ソルトが処方される。この三次元処方を使って治療された胃癌ケースが、描写されている。

キーワード：ZEN メソッド、ホメオパシー、癌

導入

Zen メソッド

Zen メソッドは、以下の様に要約されます (図1 参照)

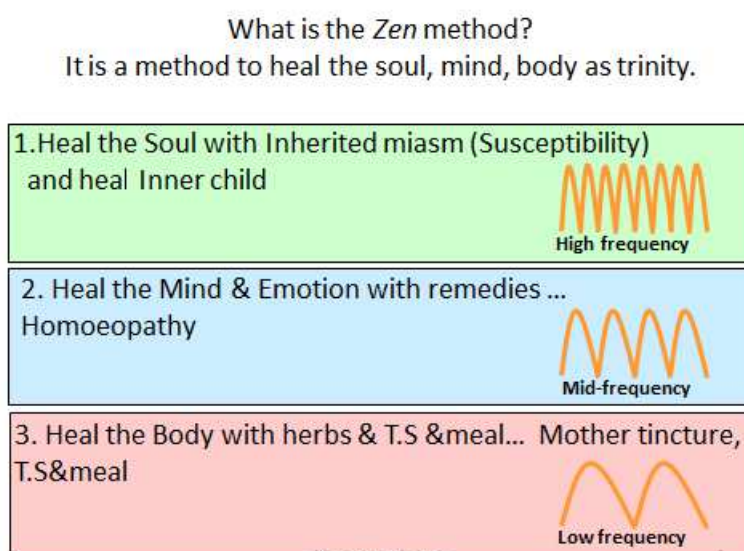


図1 : Zen メソッド

Zen メソッドは、三次元に作用します：

- 1 魂：遺伝マヤズム サセプタビリティー インナーチャイルドを癒す
- 2 心と感情：ホメオパシーレメディーは、この領域を癒す
- 3 体：ハーブ (マザーティンクチャー) とティシューソルトは、この領域を癒す

患者達は、この3つができてはじめて治っていきます。魂の周波数、心の周波数、体の周波数は異なるので、1つのレメディーでは3つの周波数を合わせることができません。病気になりやすい遺伝的傾向があり、考え方、感じ方の心の傾向があり、そしてその傾向によって体が病気になります。これらを解決することなしには体の病気を治すことができないと思われます。

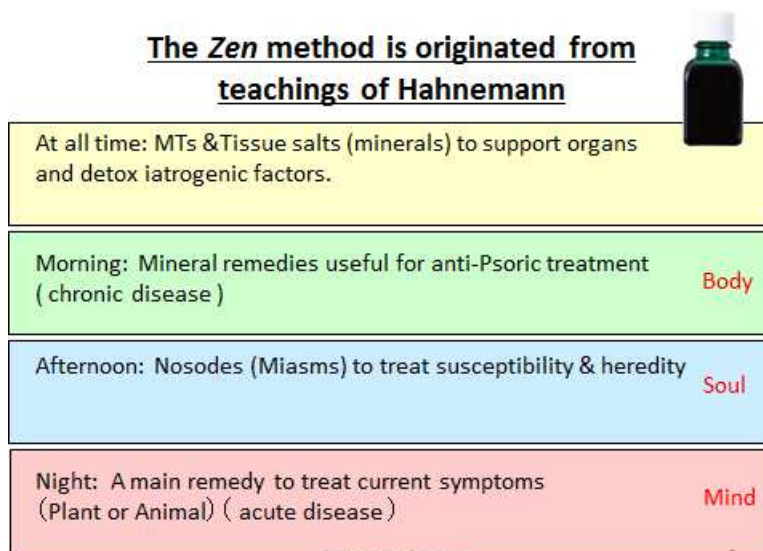


図2 : Zen メソッド処方構成

朝に抗疥癬の有益ミネラルレメディ

これは、ボーニンハウゼンレパトリー (TBR) +MM+マヤズムをかんがみて決定します。

ハーネマンは病気の80%以上は慢性マヤズム:疥癬から来ていると言っています。私の経験によると、慢性マヤズム:疥癬の多くは人体の必須ミネラル不足が原因です。

昼にマヤズム 病気にかかりやすい傾向

これは、問診票とケーステイクから考察して決定する。

家族の病歴もマヤズムを選択するのに必要な情報となる。

夜に今出ている症状。これは、TBR、MM、マヤズムをかんがみて決定します。

そして、随時としてマザーティンクチャーやティッシュソルトからつくられた臓器サポート、医原病をトートパシーで処方します。オーガノン § 279 をかんがみて何をサポートすべきかケーステイクをしながら最も弱い病気をサポートします。

Zen メソッドは、ハーネマンの教えを忠実に守りながらも、今の日本の状況を包括して、誕生しました。



.....if the disease do not manifestly depend on a considerable deterioration of an important viscus ③ (even though it belong to the chronic and complicated diseases), and if during the treatment all other alien medicinal influences are kept away from the patients, ② the dose of the homoeopathically selected and ① highly potentized ② remedy for the beginning of treatment of an important, ① especially chronic disease can never be prepared so small that it shall not be stronger than the natural disease and shall not be able to overpower it, at least in part and extinguish it from the sensation of the principle of life and thus make a beginning of a cure.

The case where we cannot cure disease by stimulate vital force with remedy

図 3 : § 279 (医術のオルガノン)

* 黒丸数字は、オルガノンの第何番目にハーネマンが執筆したかを示しています。日本ではハーネマンの変遷を知るためにオーガノンに何版に書かれた文章かを記載しているオーガノンを作りました。これによってハーネマンの言っている事が矛盾があるように感じる事が画期的に減り、オーガノンがとても分かりやすくなりました。大切なパートはオーガノン第3版までハーネマンは物質のレメディーを与えていたという事です。毒の物質を与えていたので第3版まではリピートできなかったという事です。

胃癌のケース：ケースレポート

46歳男性が、体下部後壁に印環細胞癌の診断をもってやってきた。彼は、研究開発職に携わる会社員。相談会で質問をしていると、他人からの要求、以来を断る、期待に添う事ができない、度を越えた期待をされる、自分のやるべき事をしないで人に要求する人々、など、精神レベルで彼に影響を与えている多くのストレス要因があった。

家系の病歴

母親は、大腸がんと水虫を患う：父親は健康、彼の兄は鬱に苦しみ、弟は心臓を悪くしており、肝臓も少し悪い。

生活環境調査

出生体重 3500 g

- | | |
|-------|---|
| 1〜3 歳 | 予防接種 (BCG、ジフテリア、百日咳、日本脳炎、ポリオ、天然痘、インフルエンザ) |
| 8 歳 | 弟出生 |
| 10 歳〜 | 鼻炎・副鼻腔炎で耳鼻科に火曜。吸引器をあてていた。 |
| 15 歳 | 水虫が目立つ。塗り薬を使用。母親は爪が変形するほどひどかった。 |
| 24 歳 | 電機メーカーに就職。 |
| 25 歳 | 胃を悪くする。薬、胃カメラのむ。合唱団で夜遅く飲んで体を酷使。コーヒーよく飲んだ。 |
| 34 歳 | 耳下腺炎 (おたふく風邪) の予防接種を受ける |
| 45 歳 | 部下病欠で2人分の仕事をする。さすがにつらいと思った。腰痛で一週間会社休む。 |
| 46 歳 | 莫大な仕事量。家でも遅くまで作業。胃潰瘍で入院。検査後、胃癌の診断。 |

固有の症状

胃に違和感

胸やけなどの不快感

疲労感

食事すると気持ち悪く

吐血（黒色）

鼻炎

右目じりの上：イボ ホクロ

左耳下腺：ふくれた

体全体：冷えている 小さい頃体温は35度だった

首～肩：こり

背骨ねじれている（脊柱湾曲の一種）

足：水虫

便：節だらけの便

内視鏡写真 潰瘍がはっきり残っている

< 1回目相談会でのやりとり >

（由井会長）これが確実に癌であるということ、言われたわけですね。

（患者）そうですね。組織の検査で癌だと。潰瘍が血を出したので…。

（由井会長）医師はどうしようと思っているのですかね。

（患者）潰瘍が胃の真ん中あたりにあるらしいので、これを取るのであれば、バツサリ胃を取ってしまう全摘か、残しても5分の1とか、それぐらいだろうと。あと数日前に耳下腺がちょっと膨れました。

（由井会長）おたふくにはかかったことあるの？

（患者）おたふくには、かかっていません。おたふくの予防注射を打ちました。34歳の時に。子供が一人できて、二人目ができる前だったのですけれども、子供ができなくなっても困るので、おたふくは受けました。

（由井会長）何時から何時に寝て、何時ごろご飯を食べているの？

（患者）今はちょっと休んでいるので。日が変わるまでには寝ていますが、仕事をしていた頃は1時から2時くらいに寝て6時頃に起きていました。夕食は23時半くらいです。

（由井会長）これ、胃にすごい負担がかかるね。最低でも21時前には食べないと。

（患者）はい。

（由井会長）体は、自分は冷えていると思う？ それともそうでもない？

（患者）どちらかというと冷えている方です。小さい頃から体温は低い方だったので。

予防注射の時に、体温を測ったりすると、だいたい普通で35度台。

（由井会長）水虫あると言っていましたよね。体温を上げないと駄目だ。癌の人は徹底して体温を上げてカンジダを制覇しないと癌は消えない。

（患者）はい。

（由井会長）会社では、すごくあなたは重宝された？

（患者）期待はされているっぽいです。

(由井会長) ですよ。それにちゃんと受け応えて、一生懸命やるタイプなのかな。

(患者) そうですね、はい。

(由井会長) その一生懸命仕事をやらなければいけないのだという心は誰に学んだの？あなたのお父さんがそうだったの？

(患者) 父親はそうですね。割と一生懸命やるタイプだったと思います。

(由井会長) お父さんは泣いたり弱音を吐いたりあまりしないでしょうよ。

(患者) 父はそんなに泣いたりはないですね。父は母とケンカすると、仕事場にプイと逃げてしまうみたいな…両親がケンカしているのを見るのは、あまり好きではなかったですね。

(由井会長) この二人はよくケンカをしていたかね。

(患者) たまに言い争いになって。お互い自分を通そうとして。

(由井会長) 我を張るのね。会社でもそんな人一杯いると思うけど、どうですかね。

(患者) 会社でもいますね。

(由井会長) それに対してあなたはどう思うの。

(患者) ちょっとやりにくいですね。

(由井会長) そうなんだな。あなたの中には「道徳的に穏やかに物の言い方もできるだろう。人は怒ってもついていけないよ」というふうに思っているのではないかと思うのだけれども。

(患者) そうですね。

(由井会長) 黙って黙々と働く傾向があり、つい人の2倍も仕事して文句も言わない。会社にとって都合のよい人になっていましたね。あまり頑張り過ぎると胃がボロボロになるのでね。だから、もうちょっと、頑張らないように気を抜くように。それで、手を抜くように。手を抜く自分を許してあげましょう。

(患者) はい。

TBRによるレパトライゼーション

- 1: 1973# 3. GENERAL – 3. Generals – 7. Ulcers – Cancerous:
- 2: 368# 2. Systemic – 1. Alimentary – 1. Viscera (organs) – Stomach
- 3: 538# 2. Systemic – 1. Alimentary – 2.7. Evacuation & Stools – knotty (lumpy, like sheep-dung)
- 4: 121# 1. Regional – 1. Head – 4. Ears – Glands (Parotid gland + regional lymph nodes)
- 5: 921# 2. Systemic – 6. Thermoregulatory – 1. Chill – Internal
- 6: 2186# 4. Modalities – 4. From food and drink – Meat

20th Nov., 2012 ZEN Method


順位	レメディー	出現回数	度数合計	1	2	3	4	5	6
1	Sulf.	6	19	4	4	4	3	2	2
2	Merc.	6	17	3	2	4	4	3	1
3	Sil.	6	15	4	3	2	3	2	1
4	Carb-a.	6	12	2	2	3	3	1	1
5	Caust.	6	11	1	3	3	1	2	1
6	Sep.	5	14	3	3	3	2	3	
7	Bell.	5	12	2	2	1	4	3	
8	Thuj.	5	10	2	1	3	1	3	
9	Staph.	5	9	2	2	1	2		2
10	Mag-c.	5	7		1	2	1	1	2




図 4 : 2012 年 11 月 20 日のレパトライゼーション

処方

20th Nov., 2012
ZEN Method

It contains
Carc. nosode 30C



A	Supporting ϕ for stomach cancer Mump-V30C → Aetiology	[RXS + ∅]	Combination
M	Caust.LM1	Anti-Psor Anti-Syph	
D	Psor.LM2 Syph.LM2	} Combination	
N	Merc-sol.LM3	Anti-Syph	

[C] Dr. Torako Yui, JPhM & Chhon 11

図 5 : 2012 年 11 月 20 日処方

上記処方の説明

Caust.は、冷えから悪化。このレメディーは、潰瘍のある胃癌に合います。

Psor.+Syph.は癌の症状には潰瘍の Syph と胃の上皮細胞にできる Psor をコンビにする。

Merc-sol.は、現在現れている潰瘍と耳下腺の症状に対して処方。早いうちに Syph 傾向を制覇しなければ胃からの出血は止まらない。

全般

気分はいい。痛みは少ない。

歩く事ができる。食べられる。

就寝時間：午後11時

起床時間：午前7時30分

立ちくらみが座っていて立ち上がった時、風呂に入って上がった時に起こる。

ヘモグロビン 8.4gm%

便 丸っこいウサギの便 残便感 毎日出ている

便秘症

かつて肉の量が多かった

魚を食べると黒い出便が出た

内視鏡写真：潰瘍の痕。はっきりと凹凸が見える

<2回目相談会でのやりとり>

(由井会長) 内視鏡の写真を見ましたけどね、やっぱりひだが多いのではないかなと思うのですよ、前よりね。

(患者) はい、そうですね。

(由井会長) 医師はそれを病状が進んでいると言っているのですか。

(患者) ええ、進行しているようだなという感じで言っています。まあ、写真で見た限りはということですけども。胃の潰瘍から出血したみたいで便に血が混ざりました。立ちあがった時にフラッとして調べたら貧血と言われました。

(由井会長) どうですかね、体調として。やっぱり不快感とか痛みとか出てきていますか。

(患者) いや、あまり。そうでもなくて、最近は痛みも感じる事が少なくなって、気分的にもいいです。

(由井会長) 医師が癌が悪化していると言っても調子が良いということですね。

(患者) そう思います。

(由井会長) 潰瘍を閉じるためにニンジンも良いですよ。ビタミンAがあるので。それから、ビタミンBもあると潰瘍を閉じさせます。ビタミンBは大豆や大麦粉末をとってください。それから、もう少し山に行く。自然の中に行く。それで、朝日を浴びる。これをやってみて下さい。特に目の虹彩の中に朝日を入れるように。こうすると病気が治りやすいですよ。

(患者) どうもありがとうございます。

TBRによるレパトライゼーション

1: 2556# 4. Modalities – 5. From Situation & Circumstance – Rising, on (in the act of – raising-up, becoming erect)

2: 1651# 3. Generals – 3. Skin – 1. Skin in general – pale (iron-deficiency anemia (chlorosis), etc)

3: 368# 2. Systemic – 1. Alimentary – 1. Viscera (organs) – Stomach

4: 1900# 3. General – 4. Excrescences (growths) – haematodes (haemangioma, haemangiosarcoma)

5: 538# 2. Systemic – 1. Alimentary – 2.7. Evacuation & Stools – knotty (lumpy, like sheep-dung)

6: 716# 2. Systemic – 4. Respiratory – 3. Coryza (catarrhus narium, head-cold) – Coryza, fluent – obstructed (stopped)

24th Jan. 2014 ZEN Method


順位	レメディー	出現回数	度数合計	1	2	3	4	5	6
1	Sulf.	6	22	4	4	4	3	4	3
2	Nux-v.	6	19	4	3	4	1	3	4
3	Sep.	6	15	1	3	3	2	3	3
4	Bell.	6	15	4	4	2	2	1	2
5	Nit-ac.	6	15	3	4	1	3	1	3
6	Merc.	6	14	1	2	2	3	4	2
7	Carb-a.	6	13	1	1	2	4	3	2
8	Staph.	6	9	2	2	2	1	1	1
9	Phos.	5	17	3	3	4	4		3
10	Lyc.	5	16	3	4	3	3		3

図6：2014年1月24日のレパトライゼーション

処方

24th Jan. 2014
ZEN Method


It contains
Carc. nosode 30C



Supporting ϕ for stomach cancer


A

+ Nat-m.LM2 (Support for gastric fluid)
+ His.12X




M

Carb-an.LM2 (chronic disease)
Anti-Psor
Anti-Syco
Anti-Syph




D

Psor.LM3
Tub.LM3 } Combination



N

Nux-v.LM4 (acute disease) → Help detox of digestive organs



[C] Dr. Torako Yui, JPHMA & CHOM 14

図7：2014年1月24日処方

Nat-m.は、Nat.不足と鼻水（細胞外の体液）の為に処方しました。
 His.は、長年摂っていた鼻スプレーを止めた事からのアレルギーに対して。
 Carb-an.は、癌性の潰瘍。
 癌は Psor.+Syph.+Syco.が合体してはじめてできる病気です。鼻と肺は双子の姉妹臓器。
 Tub.は Psor.+Syph.+Syco.が合体して結核傾向を作る。
 Tub.は、鼻がつまる原因に対して。癌の人は鼻が詰まっていることが多い。
 Nux-v.は、消化器の解毒を促進します。

内視鏡写真で、胃壁がきれいになっているのを確認しました。

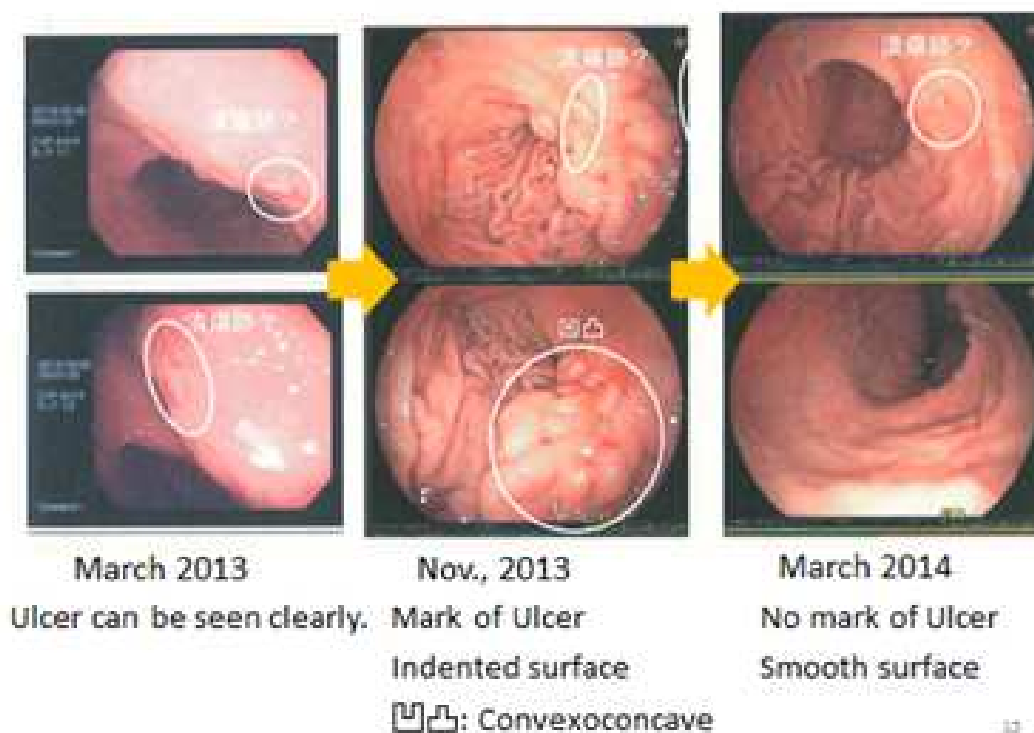


図8：胃癌の内視鏡写真比較

< 3回目 相談会のやりとり >

(患者) 写真をお付けしたのですけれども。

(由井会長) はい、はい。見ました。それで今度、すごくいいよね。

(患者) ええ。いいようにまわってきたのかなという感じがして。

(由井会長) そうですね。前と見ても、比べても、ものすごく胃壁の感じがすごくいい。

(患者) ええ。

(由井会長) しわがない時があったじゃないですか。これは腫れているんですよ。腫れているがゆえに、癌がドンとあるなというのがわかって、何か縮んでいるのです。これに対して前回医師は癌が進行していると言ったかもしれないけれど、私としては、「あ、縮んできているわ」と思っていたのですよ。そして徐々にしわもとれいい感じだと思っています。だから、こういうボーッと腫れている時はまだ、癌を作ろうとする勢いが強いということ。だから、それが縮んでくれた方がすごくいい。そういう意味では実は前回しわになって良くなっていたんですよ。Caust.,Merc-sol.が良く効きましたね。さらに Carb-an.が潰瘍を閉じさせ、こんなに早く胃の癌が良くなりましたね。

(患者) それで調子が良かったんですね。

(由井会長) そうですね。ところでこんなに良くなっているのですが会社はどうするのですか。

(患者) 一応、5月終わりまでは、休んでそれから出社します。

(由井会長) 確かに体調が良くなっていったら復帰せざるを得ないしね。

(患者) はい。

(由井会長) 前みたいな生活の仕方をしていると、また病気になるのだから、どうしなければいけないかというのは自分の中で決めたかね？

(患者) まあ無理はしないと。体の言うことを聞きながらやると。頑張らないと。

(由井会長) もう一つ、やらなければいけないことがあるのですけれども、自分がいま思っている感情を肯定するということが大事ね。感情が湧き上がった時に自分を内観する。でもその感情が、こういう風に思っていないとか、道徳が先に出てくると、また癌を作るね。だから感情を肯定的に取る事。憎んでいても、恨んでいても、怒っても。

(患者) 自分がこう思っているということを認識するということですよ。

(由井会長) 認めるということ。それと同時にすぐに大人の人というのは、「こういう風に思っていない。相手も事情があるのだから」とか、「こんな風に思っている自分はどうしてこういう風に思うのか。いけない。憎んでいるのは駄目ではないか」とかすぐに道徳で抑圧しないように。それをやるのが、熱の時に解熱剤を摂るのと同じということになる。だからその感情を感情日記にすぐ出していくというのはすごく大事だと思います。

(患者) はい。

(由井会長) 自分の感情を出すこととか、自分自身の本音を出すことが、お宅の家では、少しみんな出してはいけないみたいなのがあったのかなというのが、ちょっとあなたを見ていて思うのだけれども、その辺はどうですかね。

(患者) あの、男の子はそんなにぺちゃくちゃしゃべらなくてもいいとか。そういうのはありましたので。

(由井会長) それで、ぺちゃくちゃしゃべってはいけないという風になると、でもこうしゃべりたいとか、あ、感動した、あ、これ今、小川のせせらぎを聞いている。すごい良かったとか、そういう良い感情も抑えていくではないですか。

(患者) そうですね。そういうのもあまり口には出さないで来ましたよね。

(由井会長) ですね。そうすると共感ができないわけですよ。自分の中では感じているのだけれど、結局シェアをしない。感動も苦しみも同じ。苦しかったんだよって言わない。ぺちゃくちゃしゃべらない。それはあなたの家ではそういうルールがあったから。色々な感情を飲み込んで、喉をスルーして胃まで深く飲み込んでしまったということ。私が「仕事をやり過ぎたのではないの？」って、言うとなんか「まあこんなものではないでしょうか」とよく言うけれど、本当にこんなものだったのかなって感じるわけです。今まで私が胃癌の男性を見てきて、その人たちの多くは弱音も吐かず死に物狂いで働いていましたよ。自分の能力が100だったら、120くらいでやっていましたよ。だから、あなたは感じていないかもしれないけれど、すごく頑張ってきたんじゃないかな。だからさっき言った、体の言うことを聞こう、頑張らなくてもいいんだと言ってあげたり、無理しないでおこうというのは、すごい大事なポイントになるかな。特にぺちゃくちゃしゃべらないでと怒られたときを思い出してもらいたいんだけど。

(患者) 今一つ思い出しました。

(由井会長) ああ、そう？ 言ってみて。

(患者) 自分が縄跳びで二重跳びが出来たという時に、「出来た！」と母親に言いに行ったら、ちょうど下の子を抱えておしっこをさせている所で、びっくりしておしっこが止まってしまったらしいのです。僕が大きい声を出して。「あなたがデカイ声を出すから止まってしまったじゃないの」と言って、怒られたことがありますね。

(由井会長) だけど、嬉しかったよね。二重跳びできて嬉しかったんだよね。その嬉しかったという感情を、出したときに怒られているとなると、自分が思ったことを一聞置こうと思うようになり、一聞置いてしまったら、その感情は、もう過ぎ去っていくのですよ。フラットな感情になってしまう。そこが問題だと思うのね。他にも多分あると思うのですよ。ここで、こういう事を言うてはいけないのだとか。こうして多くの感情を飲み込んで来たと思います。その辺をどんどん思い出してもらえればと思います。また自分には治る力がすごくあったと

いうことを徹底して自負することが最も大事なポイントになるかなと思います。これからは、感情を心から胃に落とさずうまく出してあげましょう。

(患者) はい、ありがとうございます。

処方見解

Carb-an. が効果を発揮したと思います。

胃の問題、胃の潰瘍、胃の癌にもすごく良いです。小さい頃の忘れたことを、思い出させてくれる事も私は観察しました。(CK30に「記憶力の弱さ；口まで出かかっていた言葉を忘れる」)

2014年7月4日の時点、このクライアントは見事に社会復帰を遂げている。

仕事に復帰することができ、今はこれまでのように無理をしないで働いている。

Carbo animalis : マテリア・メディカ参照

耳下腺：耳下腺の腫脹 (参照：Rust's Magaz. a.a.O) 耳下腺の腫れ (Rust's Magaz. f. d. Heilk. Bd. XXII. H. 1. S. 198.) (RA42)

胃：胃の消化不良、食べたものがほぼ全て症状の原因になる。胃の圧迫痛、荷重によるような。

胃を引っつかまれるような、強く握られるような痛み。

ただれたような痛みと焼けるような痛み、喉が胸やけするような、胃にまで達する。

胃に圧迫痛、空腹時も。(RA80)

胃に、つらい圧迫痛、晩、就寝後、寝床で。緩和するために、手で胃のあたりを圧迫しなければならなかった(16時間後)(女)(RA81)

胃に圧迫痛、重苦しさと充満感を伴う、その時、呑酸の傾向もある

胃に、頻繁な刺痛 (Htb. u. Tr.)

胃に、穴があくような痛み、空腹から来るような痛みに近い、腹部へ向かう

圧迫痛、胃と胸部に、そして時折下腹部に。

精神：朝、見捨てられたように感じ、郷愁の念に満ちている。(男) 郷愁 (訳注：単にホームシックだけでなく、かつていた場所・関わった人々への慕情)。

最初は無関心。その後、激情を引き起こすような外部からの刺激に対し、非常に敏感になる。(RA189)

鼻：鼻詰まりのする鼻風邪。鼻で呼吸することができない。(男)(RA127)

鼻詰まりのする鼻風邪。午前中から晩まで(1日目)(Htb. u. Tr.)

鼻詰まりのする鼻風邪。朝、目覚めた時、起床後に消える (Htb. u. Tr.)

左の鼻の穴が詰まる、午前中(2,3日目)(Htb. u. Tr.)

結論

患者は、レメディーによって免疫が増加し、疾患から治癒した後、自分自身で生き始める。私は、胃癌において、特に Carb-an が指摘されている事を観察した。私は、彼に、会社の為に自分ができる以上に働かない様にも薦めた。言い換えれば、私は、彼に、自分の「インナーチャイルド」を癒すように薦めた。彼が男性であろうが、彼が泣いたり愚痴を言わせたい。熱が、体内毒を排泄する事を意味する様に、こみ上げた感情も排泄されなければならない。

私が、この Zen メソッドに行き着いたのは、20 年前、英国に住んでいた時に、リマ・ハンドリーの「晩年のハーネマン」を読み、後世の人々によって「神のように創作されたハーネマン像」ではなく、「創意工夫する人間くさいハーネマンの姿」をはっきりと見る事ができたからです。

創意工夫する全ての人がそうであるように、彼は、自分で設けた規則を幾度となく破っていきました。そして、私に分かったことは、ホメオパシーを生み出し広めたその人物は、常に「如何にして真のホメオパスとなるか」を学んでいる途上にあり続けた、ということです。

彼は、きわめて実験的精神に富んでいて、自分の学説にとらわれませんでした。一回一回の処方が冒険でした。彼は、これから何が起こるのか知りませんでした。起きたことにすっかり驚いてしまう事も多くありました。まさに渉外を終えるその時まで、彼は観察と実験を続けていったのです。

私も、このハーネマンの精神に学び、日本の地で Zen メソッドを築き上げて参りました。

複雑になってしまった病理に苦しむ世界中のクライアントを救う為、この Zen メソッドが皆様のご参考になりましたら幸いです。

ホメオパシーの恩恵が全てに降り注ぐことを！万物生命、その存在自体に感謝し、命そのものを生きられんことを！

参照

1. 医術のオルガノン第六版：ハーネマン S：(日本語版：オリジナルドイツ語より翻訳) 2007 ホメオパシー出版
2. マテリア・メディカ・プーラ：ハーネマン S：(日本語版：オリジナルドイツ語より翻訳) 2010 カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー
3. 慢性病論のマテリア・メディカ：ハーネマン S：(日本語版：オリジナルドイツ語より翻訳) 2010 カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー
4. ボーニン・ハウゼン・レパトリー：ボーニンハウゼン CV：(日本語版) 2010 ホメオパシー出版 (英語版) Southwood Press Pty. Ltd, Sydney

著者について

由井寅子博士は、日本のホメオパシーを代表する治療家。彼女のホメオパシーの実践とハーネマニアン原理の研究は、国際的絶賛を浴びている。彼女は、多くのホメオパシーの書籍、論説、翻訳をしている。

「私は、イギリス、ロンドンに住んでいた頃、潰瘍性大腸炎を患い、万策尽きた時、ホメオパシーに出遭い完治した経験をきっかけに、ホメオパシーを学び、日本人初のホメオパスとなりました。約 20 年前、未だホメオパシーが殆どの人々に知られていなかった日本にホメオパシーを普及し、1997 年には日本初のホメオパス養成コースを開校し、学長を務めています。

現在では、全国に 300 以上の日本ホメオパシーセンターがあり、600 名以上のホメオパスが日本各地で活躍しています。私は、この日本ホメオパシーセンターの総センター長を務め、後輩ホメオパス達の育成にも力を注いでいます。私の勤務する東京センターには、月々約 300 名のクライアントが訪問します。

1998 年、日本ホメオパシー医学協会を設立し、ホメオパシー職業保険を適用させる事に成功し、ホメオパスの職業的地位を築きました。現在、日本では、推定 15 万人がホメオパシーを使用する程、ホメオパシーは発展しています。

私は、日本へホメオパシーを持ち帰り、医原病大国の日本における様々な難病ケースを通じ Zen メソッド (三次

元処方)を10年かけて確立しました。

このメソッドは、アトピー性皮膚炎、発達障害、癌、など、現代社会において不治の病と呼ばれる複雑な病理に対しても高い治癒率を持っており、Zenメソッドで治癒したケースをご紹介します事で、世界各国におけるホメオパシー療法の発展に貢献できる事を願います。」